

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3081774号  
(U3081774)

(45) 発行日 平成13年11月22日 (2001. 11. 22)

(24) 登録日 平成13年 8 月29日 (2001. 8. 29)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

G 0 8 B 13/22

G 0 8 B 13/22

21/00

21/00

21/02

21/02

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2001-3012(U2001-3012)

(22) 出願日 平成13年 5 月16日 (2001. 5. 16)

(73) 実用新案権者 391057258

大崎衛生材料株式会社

愛知県名古屋市西区玉池町206番地

(72) 考案者 大崎 将男

名古屋市西区玉池町206番地 大崎衛生材  
料株式会社内

(74) 代理人 100081628

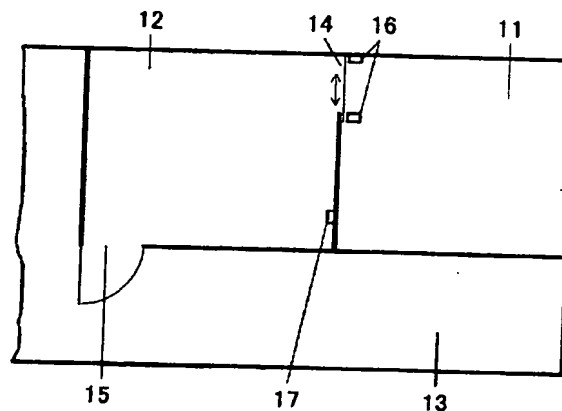
弁理士 水野 桂

(54) 【考案の名称】 新生児略取防止システムと検知用新生児用品

(57) 【要約】

【課題】 病院の新生児室から新生児が略取されるのを防止する。

【解決手段】 病院の新生児室 1 1 に滞在する新生児に、検知用タグを取り付けたベビー肌着、名札、タオル、ベビーキャップ又はおむつなどの検知用新生児用品を身に付けさせる。新生児室 1 1 の出入口 1 4、又は、病院の新生児室 1 1 とナースステーション 1 2 を含む新生児用区域の出入口に、検知用新生児用品が近づいたことを検知して出力する検知用ゲート 1 6 を取り付け、検知用新生児用品を身に付けた新生児が、検知用ゲート 1 6 を付けた出入口 1 4 に近づくと、検知用ゲート 1 6 が出力し、出入口 1 4 を開放禁止にする、又は、ナースステーション 1 2 に設けた警報器 1 7 を作動する構成にした新生児略取防止システム。



1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 病院の新生児室において新生児が身に付けるベビー肌着、名札、タオル、ベビーキャップや、おむつなどの新生児用品に、検知用ゲートに近づくと検知される検知用タグを取り付けたことを特徴とする検知用新生児用品。

【請求項2】 病院の新生児室の出入口、又は、病院の新生児室とナースステーションを含む新生児用区域の出入口に、請求項1に記載の検知用新生児用品が近づいたことを検知して出力する検知用ゲートを取り付け、検知用新生児用品を身に付けた新生児が、検知用ゲートを付けた出入口に近づくと、検知用ゲートが出力し、出入口を開放禁止にする、又は、ナースステーションに設けた警報器を作動する構成にしたことを特徴とする新生児略取防止システム。

【請求項3】 請求項2に記載の新生児略取防止システムにおいて、

更に、病院の新生児室又は新生児用区域の出入口に、新生児室又は新生児用区域に入室又は入域が許可された者が保持する特定のＩＤカードが近づいたことを検知して出力する検知用ゲートを取り付け、

上記のＩＤカードを保持した者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づくと、検知用ゲートが出力し、出入口を開放可能にし、上記のＩＤカードを保持しない者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づいても、検知用ゲートが出力せず、出入口を開放可能にしない構成にしたことを特徴とする新生児略取防止システム。

【請求項4】 病院の新生児室の出入口、又は、病院の新生児室とナースステーションを含む新生児用区域の出入口に、新生児室又は新生児用区域に入室又は入域が許可された者が保持する特定のＩＤカードが近づいたことを検知して出力する検知用ゲートを取り付け、

上記のＩＤカードを保持した者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づくと、検知用ゲートが出力し、出入口を開放可能にし、上記のＩＤカードを保持しない者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づいても、検知用ゲート\*

2

\*が出力せず、出入口を開放可能にしない構成にしたことを特徴とする新生児略取防止システム。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施形態の第1例における検知用新生児用品に取り付ける検知用タグの斜視図。

【図2】 同検知用新生児用品のベビー肌着の正面図。

【図3】 同検知用新生児用品のバンド式名札を示し、(a)は正面図、(b)は平面図。

【図4】 同検知用新生児用品の下げ札式名札を示し、(a)は正面図、(b)は右側面図。

【図5】 同検知用新生児用品のタオルの裏面図。

【図6】 同例における新生児略取防止システムを備えた病院の新生児用区域の平面図。

【図7】 実施形態の第2例における新生児略取防止システムを備えた病院の新生児用区域の平面図。

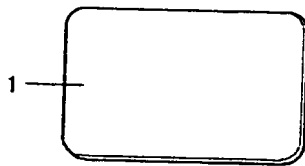
【図8】 実施形態の第3例における新生児略取防止システムを備えた病院の新生児用区域の平面図。

【図9】 実施形態の第4例における新生児略取防止システムを備えた病院の新生児用区域の平面図。

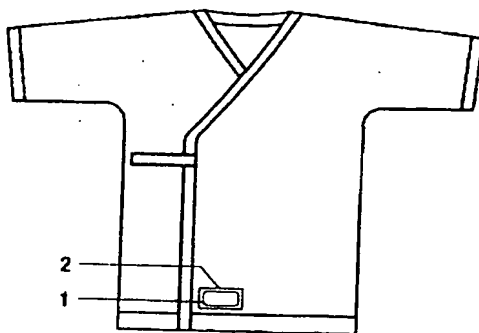
## 【符号の説明】

- 1 検知用タグ
- 2 検知用新生児用品のベビー肌着の検知用タグ取付部
- 4 検知用新生児用品のバンド式名札の検知用タグ嵌め込み穴
- 7 検知用新生児用品の下げ札式名札の検知用タグ嵌め込み穴
- 8 検知用新生児用品のタオルの検知用タグ取付部
- 11 新生児室
- 12 ナースステーション
- 13 通路
- 11～13 新生児用区域
- 14 新生児室の出入口
- 16 新生児持ち去り防止システムの検知用ゲート
- 17 新生児持ち去り防止システムの警報器
- 23 新生児用区域の出入口
- 31 部外者侵入防止システムの検知用ゲート

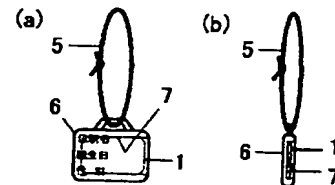
【図1】



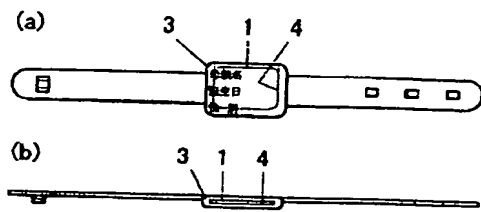
【図2】



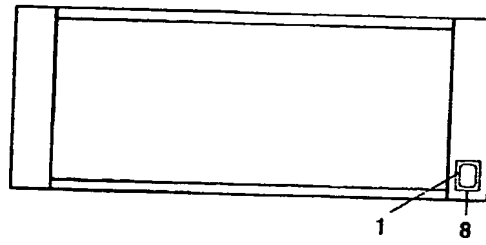
【図4】



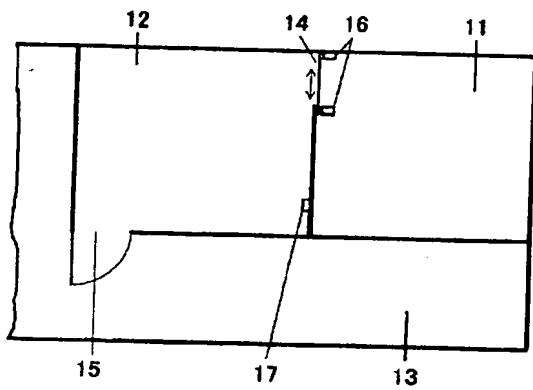
【図3】



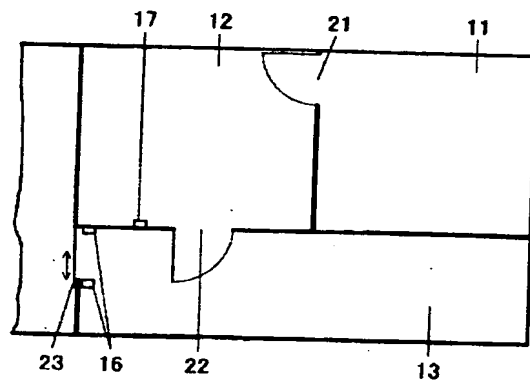
【図5】



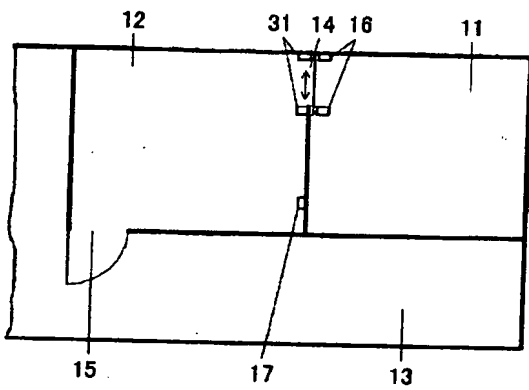
【図6】



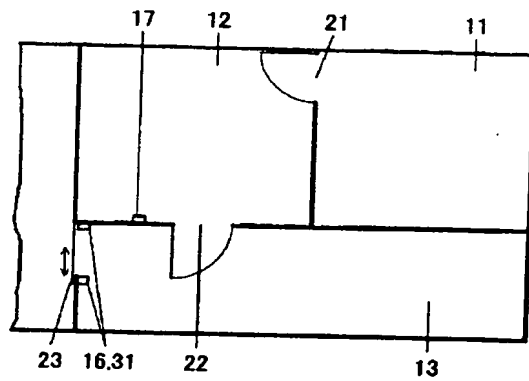
【図7】



【図8】



【図9】



## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【考案の属する技術分野】

本考案は、病院の新生児室から新生児が略取されるのを防止するシステムと、新生児室の新生児を検知するための検知用新生児用品に関する。

【0002】

## 【従来の技術】

病院の産科や産婦人科には、新生児が生後しばらく滞在する新生児室がある。新生児室に隣接して、新生児の世話をする看護婦が詰めるナースステーションがある。

【0003】

新生児室又は新生児室とナースステーションを含む新生児用区域は、新生児の略取と部外者の侵入を防止するため、出入口を施錠する。出入口の鍵は、新生児の世話をするナースステーションの看護婦が管理している。

【0004】

## 【考案が解決しようとする課題】

ところが、病院の新生児室又は新生児用区域において、看護婦が出入口の施錠を忘れたり、出入口の錠が壊れたりして、出入口が開放自在になると、部外者が侵入し、新生児を略取したり、新生児に危害を加えることがある。

【0005】

## 【課題を解決するための着眼】

1) 商品の万引き防止システムを新生児の略取防止に利用することに着眼した。商品の万引き防止システムは、商品を陳列販売する店において、陳列する商品に検知用のタグを取り付け、出入口に検知用のゲートを取り付け、検知用タグを付けた商品を持った人が、検知用ゲートを付けた出入口に近づくと、出入口を閉鎖して警報を発する。

【0006】

このような着眼を生かすため、病院の新生児室において新生児が常時身に付けるベビー肌着、名札、タオル、ベビーキャップやおむつなどの新生児用品に検知

用タグを取り付けることを考案した。また、病院の新生児室又は新生児用区域の出入口に検知用ゲートを取り付け、検知用タグ付きの新生児用品を身に付けた新生児を抱いた人が、検知用ゲートを付けた出入口に近づくと、出入口を開放禁止にすることを考案した。更に、検知用タグ付きの新生児用品を身に付けた新生児を抱いた人が、検知用ゲートを付けた出入口に近づいたことをナースステーションの看護婦に知らせることを考案した。

【0007】

2) 入室者の限定システムを新生児の略取防止に利用することに着眼した。入室者の限定システムは、特定の部屋に入室が許可された者のみが特定のIDカード(検知用タグの身分証明書)を保持し、特定の部屋の出入口に検知用ゲートを取り付け、特定のIDカードを保持した者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づくと、出入口は、開放禁止が解除されて開放可能になる。特定のIDカードを保持しない者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づいても、出入口は、開放可能にならず、開放禁止が維持される。

【0008】

このような着眼を生かすため、病院の新生児室又は新生児用区域に入室又は入域が許可された看護婦とその他の関係者にのみ特定のIDカードを保持させることを考案した。また、病院の新生児室又は新生児用区域の出入口に検知用ゲートを取り付け、特定のIDカードを保持した者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づくと、出入口を開放可能にし、特定のIDカードを保持しない者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づいても、出入口のドアを開放可能にしないことを考案した。

【0009】

【課題を解決するための手段】

1) 病院の新生児室において新生児に、検知用タグを取り付けたベビー肌着、名札、タオル、ベビーキャップ又はおむつなどの検知用新生児用品を身に付けさせ、

病院の新生児室の出入口、又は、病院の新生児室とナースステーションを含む新生児用区域の出入口に、検知用新生児用品が近づいたことを検知して出力する

検知用ゲートを取り付け、

検知用新生児用品を身に付けた新生児が、検知用ゲートを付けた出入口に近づく、検知用ゲートが出力し、出入口を開放禁止にする、又は、ナースステーションに設けた警報器を作動する構成にしたことを特徴とする新生児略取防止システム。

【0010】

2) 病院の新生児室、又は、病院の新生児室とナースステーションを含む新生児用区域に入室又は入域が許可された者に特定のIDカードを保持させ、

病院の新生児室又は新生児用区域の出入口に、上記のIDカードが近づいたことを検知して出力する検知用ゲートを取り付け、

上記のIDカードを保持した者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づく、検知用ゲートが出力し、出入口を開放可能にし、上記のIDカードを保持しない者が、検知用ゲートを付けた出入口に近づいても、検知用ゲートが出力せず、出入口を開放可能にしない構成にしたことを特徴とする新生児略取防止システム。

【0011】

【考案の効果】

新生児略取防止システムにおいては、病院の新生児室に侵入した者が新生児を持ち去ろうとして、検知用タグ付きの検知用新生児用品を身に付けた新生児を抱いて、新生児室又は新生児用区域の出入口に近づく、出入口の検知用ゲートが出力し、出入口が開放禁止になる、又は、ナースステーションに設けた警報器が作動する。新生児の持ち去りが防止される。

【0012】

また、特定のIDカードを保持しない者が病院の新生児室又は新生児用区域に侵入しようとして、病院の新生児室又は新生児用区域の出入口に近づいても、検知用ゲートが出力せず、出入口が開放可能にならない。部外者の侵入が防止される。

【0013】

結局、病院の新生児室から新生児が略取されるのが防止される。

【0014】

**【考案の実施の形態】****〔第1例（図1～図6参照）〕**

本例の検知用新生児用品は、病院の新生児室において新生児が身に付けるベビー肌着、名札、タオル、ベビーキャップや、おむつなどの新生児用品に、ICチップを内蔵した非接触式無電池型の検知用タグ1を取り付けている。

**【0015】**

検知用タグ1は、図1に示すように、角を丸めた四角形の薄板形状であり、防水性と耐衝撃性がある。このタグ1は、後述する検知用ゲートが発信する検知波を受信すると、固有の応答波を発信する。検知用ゲートは、検知用タグ1の応答波を受信すると、検知用タグ1の接近を検知して電気信号を出力する。

**【0016】**

検知用新生児用品のベビー肌着は、図2に示すように、新生児に着せる肌着の左前身ごろの裏側にポケット形状の取付部2を設け、取付部2に検知用タグ1を差し込んで取り付けている。

**【0017】**

検知用新生児用品のバンド式名札は、図3に示すように、新生児の足に巻き付けるバンドの中央部の記名板3に薄板形状の嵌め込み穴4を形成し、嵌め込み穴4に検知用タグ1を嵌め込んで取り付けている。なお、合成樹脂成形品の記名板3には、新生児の母親名、誕生日と性別を記入する。

**【0018】**

検知用新生児用品の下げ札式名札は、図4に示すように、新生児の足に嵌めるゴム輪5に吊り下げた記名板6に薄板形状の嵌め込み穴7を形成し、嵌め込み穴7に検知用タグ1を嵌め込んで取り付けている。なお、合成樹脂成形品の記名板6には、新生児の母親名、誕生日と性別を記入する。

**【0019】**

検知用新生児用品のタオルは、図5に示すように、新生児に巻き付けるタオルの隅にポケット形状の取付部8を設け、取付部8に検知用タグ1を差し込んで取り付けている。

**【0020】**

検知用新生児用品のベビーキャップは、新生児の頭に被せる毛糸編みの帽子の頂上にポケット形状の取付部を設け、取付部に検知用タグ1を差し込んで取り付けている。

#### 【0021】

検知用新生児用品のおむつは、新生児に着ける使い捨て紙おむつにポケット形状の取付部を設け、取付部に検知用タグ1を差し込んで取り付けている。又は、新生児に着ける使い捨て紙おむつに検知用タグを、その片面に形成した粘着層で、貼り付けている。

#### 【0022】

病院の新生児用区域は、図6に示すように、新生児室11とナースステーション12及び通路13を隣接して設けている。新生児室11とナースステーション12との間の壁には、引き戸付きの出入口14を設け、ナースステーション12と通路13との間の壁には、開き戸付きの出入口15を設けている。

#### 【0023】

本例の新生児略取防止システムは、図6に示すように、新生児室11の引き戸付きの出入口14に、上記の検知用新生児用品のベビー肌着、名札、タオル、ベビーキャップ又はおむつが新生児室11内から出入口14に近づいたことを検知して出力する検知用ゲート16を取り付けている。

#### 【0024】

新生児室11の出入口14には、人が出入口14に近い所定の位置に立つと引き戸を開放してその後閉鎖する自動開閉装置と、引き戸を閉鎖状態に維持する自動ロック装置を取り付けている。検知用ゲート16の出力によって、自動開閉装置の開放作動を禁止して自動ロック装置を作動する制御装置を設けている。検知用ゲート16が出力すると、その時に引き戸が開いておれば、引き戸を閉じて閉鎖状態に維持し、また、その時に引き戸が閉じておれば、引き戸を直ちに閉鎖状態に維持し、出入口14を開放禁止にする構成にしている。

#### 【0025】

また、ナースステーション12内には、警告灯と警告音発生器を備えた警報器17を取り付け、検知用ゲート16の出力によって、警報器17を作動して警告



灯を点滅すると共に警報音を発する構成にしている。

【0026】

本例の新生児略取防止システムにおいては、新生児室11に滞在する新生児には上記の検知用新生児用品のうち単数又は複数を身に付けておく。新生児室11に侵入した者が新生児室11に滞在中の新生児を持ち去ろうとして、検知用タグ1付きの検知用新生児用品を身に付けた新生児を抱いて、検知用ゲート16付きの出入口14に近づくと、検知用ゲート16が出力し、出入口14が開放禁止になる。また、ナースステーション12の警報器17が作動する。新生児室11の新生児の持ち去りが防止される。

【0027】

〔第2例（図7参照）〕

本例は、第1例における検知用ゲート16などを新生児用区域の出入口に設けた新生児略取防止システムである。

【0028】

病院の新生児用区域は、図7に示すように、新生児室11とナースステーション12及び通路13を隣接して設け、新生児室11とナースステーション12との間の壁に引き戸付きの出入口21を設け、ナースステーション12と通路13との間の壁に引き戸付きの出入口22を設け、通路13と新生児用区域外との間に引き戸付きの出入口23を設けている。

【0029】

本例の新生児略取防止システムは、図7に示すように、新生児用区域の引き戸付きの出入口23に、第1例における検知用新生児用品が通路13内から出入口23に近づいたことを検知して出力する第1例における検知用ゲート16を取り付けている。

【0030】

新生児用区域の出入口23には、第1例における自動開閉装置と自動ロック装置及び制御装置を設けている。検知用ゲート16が出力すると、その時に引き戸が開いておれば、引き戸を閉じて閉鎖状態に維持し、また、その時に引き戸が閉じておれば、引き戸を直ちに閉鎖状態に維持し、出入口23を開放禁止にする構

成にしている。

【0031】

また、ナースステーション12内には、第1例における警報器17を取り付け、検知用ゲート16の出力によって、警報器17を作動して警告灯を点滅すると共に警報音を発する構成にしている。

【0032】

本例の新生児略取防止システムにおいては、新生児室11に滞在する新生児には第1例における検知用新生児用品を身に付けておく。新生児室11に侵入した者が新生児室11の新生児を持ち去ろうとして、検知用新生児用品を身に付けた新生児を抱いて、新生児用区域の出入口23に近づくと、検知用ゲート16が出力し、出入口23が開放禁止になる。また、ナースステーション12の警報器17が作動する。新生児の持ち去りが防止される。

【0033】

[第3例(図8参照)]

本例は、第1例における新生児の持ち去りを防止するシステムに、部外者の侵入を防止するシステムを追加した新生児略取防止システムである。

【0034】

部外者侵入防止システムは、病院の新生児室11に入室が許可された看護婦とその他の関係者にのみ特定のIDカードを保持させる。部外者には、そのようなIDカードを保持させない。

【0035】

IDカードは、検知用タグの身分証明書であり、部外者侵入防止システムの検知用ゲートが発信する検知波を受信すると、個人識別用の固有の応答波を発信する。部外者侵入防止システムの検知用ゲートは、IDカードの応答波を受信すると、IDカードの接近を検知して電気信号を出力する。

【0036】

新生児室11の引き戸付きの出入口14には、図8に示すように、第1例における新生児持ち去り防止システムの検知用ゲート16を取り付け、また、上記の特定のIDカードが新生児室11の外部又は内部から出入口14に近づいたこと

を検知して出力する部外者侵入防止システムの検知用ゲート31を取り付けている。

【0037】

新生児室11の出入口14には、部外者侵入防止システムの検知用ゲート31が出力すると引き戸を開放してその後閉鎖する自動開閉装置と、引き戸を閉鎖状態に維持する自動ロック装置を取り付けている。部外者侵入防止システムの検知用ゲート31が出力していないと、自動ロック装置を作動し、その検知用ゲート31が出力すると、自動ロック装置の作動を停止して自動開閉装置を開放作動してその後閉鎖作動する制御装置を設けている。

【0038】

新生児室11の出入口14は、部外者侵入防止システムの検知用ゲート31が出力していないと、開放禁止になっており、その検知用ゲート31が出力すると、開放可能になって、人が出入する間、開放する構成にしている。また、出入口14は、部外者侵入防止システムの検知用ゲート31が出力していても、新生児持ち去り防止システムの検知用ゲート16が出力すると、第1例におけるのと同様に、開放禁止にする構成にしている。

【0039】

また、ナースステーション12内には、第1例における警報器17を取り付け、新生児持ち去り防止システムの検知用ゲート16の出力によって、警報器17を作動して警告灯を点滅すると共に警報音を発する構成にしている。

【0040】

本例の新生児略取防止システムにおいては、新生児室11に滞在する新生児には第1例における検知用新生児用品を身に付けておく。また、新生児室11に入室が許可された関係者は、新生児室11に出入する際、上記の特定のIDカードを保持する。

【0041】

このIDカードを保持した者が新生児室11の出入口14に近づくと、出入口14は、開放する。しかし、上記のIDカードを保持しない者が出入口14に近づいても、出入口14は、開放禁止のままであり、閉鎖している。新生児室11

への部外者の侵入が防止される。

【0042】

また、新生児室11に侵入した者が新生児を持ち去ろうとして、検知用新生児用品を身に付けた新生児を抱いて出入口14に近づくと、第1例におけるのと同様に、出入口14が開放せず、ナースステーション12の警報器17が作動する。新生児の持ち去りが防止される。

【0043】

〔第4例（図9参照）〕

本例は、第2例における新生児持ち去り防止システムに、第3例における部外者侵入防止システムを追加した新生児略取防止システムである。即ち、新生児持ち去り防止システムと部外者侵入防止システムを施す出入口を第3例における新生児室11の出入口14から新生児用区域の出入口23に変更した例である。

【0044】

新生児用区域の出入口23には、図9に示すように、第2例における新生児持ち去り防止システムの検知用ゲート16と、第3例における部外者侵入防止システムの検知用ゲート31を兼用した検知用ゲート16、31を取り付けている。その他の点は、第3例におけるのと同様である。

【0045】

〔第5例〕

本例は、第3例又は第4例において、新生児持ち去り防止システムを設けずに、部外者侵入防止システムのみを設けた新生児略取防止システムである。